２０１７年（平成２９年）１１月７日　火曜日

デーリー東北　１２面　掲載

決勝戦詳報

知的書評合戦「第４回ビブリオバトルｉｎ八戸」の決勝戦が４日、八戸市のデーリー東北新聞社で開かれた。高校生から一般まで四つの部門の予選を勝ち抜いたファイナリストが「チャンプ本」を懸けて行った発表と、特別ゲストの講演の内容を紹介する。（取材班）

知的書評合戦 BIBLIO BATTLE IN HACHINOHE

楽しいトークでバトルを進行した司会の大地球さん（左）と三浦文恵さん

「第４回ビブリオバトルin八戸」決勝戦
- ▷日　時　11月４日（土）午後１時開会
- ▷場　所　デーリー東北新聞社６階メディアホール
- ▷特別ゲスト　佐々涼子さん（作家）
- ▷司　会　大地球さん（BePM）、三浦文恵さん（八戸学院短期大学）
- ▷主　催　デーリー東北新聞社、八戸学院大学
- ▷特別協賛　日本製紙
- ▷協　力　八戸市、八戸テレビ放送、BeFM
- ▷後　援　ビブリオバトル普及委員会、青森県教育委員会、青森県図書館連絡協議会、青森県学校図書館協議会、岩手県教育委員会、岩手県図書館協会、岩手県学校図書館協議会

特別な一冊 魅力熱く

植物が結ぶ二人の恋

宮澤日向子（みやさわひなこ）さん（20）

＝八戸市、八戸学院大短期大学部１年

チャンプ本

「植物図鑑」（有川浩、幻冬舎）

「日向子の字ってね、向日葵の字に似てるの。だから私、向日葵みたいな人になる」。私は大切だと思える人ができた時、こう伝えるようにしている。

私は夏生まれで、誕生日が近づくと、明るいヒマワリの花がたくさん咲き始める。見るだけで元気をもらえるヒマワリの花は、以前から大好きな花だった。

もう一つ、伝える理由がある。川端康成の言葉だ。「別れる男に、花の名を一つは教えておきなさい。花は毎年必ず咲きます」

ヒマワリの花が咲く頃、大切な人の心の隅に、少しでも私のことが思い浮かべばいいなと思いながら、伝えるようにしている。

この言葉に出会った本が「植物図鑑」。植物の写真がいっぱい載った分厚い本を思い浮かべた人もいるかもしれないが、少女漫画化や映画化もされている恋愛小説だ。

主人公のさやかは、20代後半の会社員女性。樹（いつき）は20代後半の謎の男―としておく。二人の出会いはさやかのマンションのポーチだった。ある日、さやかが飲み会から帰ると、マンションのポーチに樹が行き倒れていた。「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか」「あらやだ、けっこういい男」。ここが二人の始まりだった。

樹を自分の部屋に上げた次の日の朝、樹は家事が苦手なさやかの冷蔵庫に辛うじて残っていた卵とタマネギを使って、オムレツとみそ汁を作った。それがおいしくて、さやかの胃袋をつかみ、二人の共同生活がスタートする。

樹木の樹って書いてイツキって読むんだ―としか自分のことを語らない樹は、優しくて、料理が上手で、そして植物が好き。

ある日、樹はさやかを散歩に誘い出す。出掛けた先で二人を待っていたのは、どこにでも咲いていそうな、でも普通にしていたら見過ごしてしまいそうなたくさんの植物だった。ひとくくりに〝雑草〟と呼んでしまっているような植物に、樹は次々と名前を刻んだ。

「雑草という名の草はない。すべての草には名前がある」という昭和天皇の言葉も、二人の合言葉になっていく。お出掛けをして、植物採集をして、採ってきた植物を樹が料理して味わう。そうして、たくさんの植物が図鑑に収められていくように、二人の思い出がどんどん増えていく。

巻末には、樹が作ったレシピが載っていて、二人の気持ちに近づきながらこの本を読み進めることができると思う。

樹は一体何者なのか、二人の恋の行方はどうなるのか、ぜひ読んでみて。

デーリー東北新聞社提供